

応援しあうスポーツ チアリーディングの醍醐味

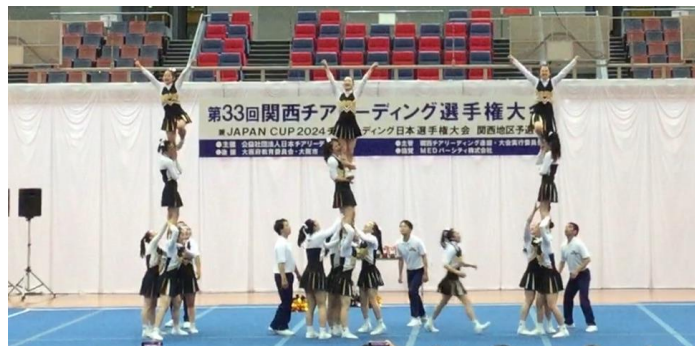
関西大会の応援に駆けつけたとある高校の野球部やアメリカンフットボール部の選手たちが、こう言った。「チアリーディングがこんなにも他チームを応援しあうスポーツだとは思わなかった」と。

自由演技競技 Division 1 大学の部、関西外国語大学同短期大学部の演技でのこと。演技の後半で音楽が流れなくなり、選手たちはカウントをかけながら必死にラストまで演技を繋いだ。会場からは自然と頑張れ、頑張れ、との声援がこだまし、手拍子が湧き起こる。なんとか演技を終えた選手たちは、ややうなだれ気味にマットを後にした。

すぐに審判部から「音響トラブルのため、後ほど再演技を許可いたします」とアナウンスが入ると、会場は再び歓声と拍手に包まれた。「全国大会進出がかかった大会で、他チームが再演技をして良い演技をしたら自チームが不利になることだってあるのに、観客や他チームがそれを喜ぶなんて」と、驚いた観客もいたようだ。

チアリーディングは、いかに観客を魅了し、引き付けることができるかどうかを競う「表現スポーツ」だ。競技会では難易度と完成度の両方を追求しながらも、観客とかけあいをし、その心に届ける演技を目指す。だからこそ演技において「己と闘う」こと、そしてそれを「自分も楽しみ、観客も楽しませる」ことに昇華させるのが、一番大切で一番難しいと選手たちは理解している。だから競技会であっても自然とお互いを応援しあう土壌が生成されているのだ。この競技の中にいる者はそれが当たり前でごく自然なことなのだが、このような状況に感嘆し賞賛の声を耳にすると、改めて心底嬉しくなり、チアリーディングの素晴らしさをより多くの人に届けたい。

JAPAN CUP 日本選手権大会は8月29日から9月1日にかけて開催。東京・国立代々木競技場・第一体育館に各地区の予選を突破したチームが集結する。今度はその地区の垣根を越えて互いに応援し、たたえあうチアリーダーたちの姿勢が、それぞれのチームの技術と表現力を存分に引き出すことだろう。まさしく規定演技のコール「You Can Do it, We Can Do it」だ。代々木のメインアリーナが昨年にも増して素晴らしい空間となることを期待している。



ラストのピラミッドを決めた関西外国語大学同短期大学部

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.